

2024年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

2024 年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 法人総括報告

「CEATEC 2024」は、25 回目の開催となり、展示規模を昨年から拡大し、幕張メッセで実施した。「Inter BEE 2024」は、60 回目の開催となり、幕張メッセにて規模を拡大して実施した。

引き続き、主催者である一般社団法人電子情報技術産業協会と緊密に連携しながら、リアルとオンラインを活用し、出展企業のビジネスへの貢献を図った。また、経済発展と社会課題の解決を両立する Society 5.0 を基軸とした共創の場として、関連産業のみならず関係省庁、国内外の関係団体と緊密に連携し、あらゆる産業、業種の人々や技術、情報が集い「共創」によって未来を描く、業界団体が主催する展示会ならではの企画、運営に努めた。

「CEATEC 2025」は、2 月 6 日に開催概要説明のオンライン配信を実施し、2 月 13 日より出展申込受付を開始した。「Inter BEE 2025」は、Inter BEE 2025 実行委員会にて開催基本方針等を決定し、3 月 3 日より出展申込受付を開始し、翌日 3 月 4 日にオンライン説明会動画を配信した。

事務局運営では、オフィス勤務と在宅勤務を併用しながら効率よく業務を進めるとともに、継続的な協会運営のため事務局業務の見直しについて検討した。

2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等の協会運営に関する重要事項を審議する会議は、書面審議、オンライン会議にて開催し、円滑に運営を行った。

(1) 総会

- ①第 22 回通常総会（書面）（2024 年 6 月 3 日）を開催し、次の議案を決議した。
 - ・ 2023 年度事業報告及び決算報告承認の件
 - ・ 2024 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件
 - ・ 役員選任の件

(2) 理事会

- ①第 67 回理事会（書面）（2024 年 5 月 16 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・ 2023 年度事業報告（案）承認の件
 - ・ 2023 年度決算報告（案）承認の件
 - ・ 役員選任（案）承認の件
 - ・ 書面決議による第 22 回通常総会の議案承認の件
 - ・ 会員の入会承認の件
- ②第 68 回理事会（書面）（2024 年 6 月 3 日）を開催し、次の審議事項を承認した。

- ・代表理事の選定
- ・会長・副会長の役職役員の選定
- ③第 69 回理事会（書面）（2024 年 11 月 18 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・会員の入会承認の件
 - ・業務執行状況報告
- ④第 70 回理事会（書面）（2025 年 3 月 27 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・2025 年度事業計画（案）承認の件
 - ・2025 年度収支予算（案）承認の件
 - ・会員の入会承認の件
 - ・業務執行状況報告

(3) 運営役員会

- ①第 62 回運営役員会（2024 年 5 月 13 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 67 回理事会（書面）提案事項の件
 - ・第 22 回通常総会（書面）提案事項の件
 - ・第 68 回理事会（書面）提案事項の件
- ②第 63 回運営役員会（2024 年 11 月 5 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 69 回理事会（書面）提案事項の件
- ③第 64 回運営役員会（2025 年 3 月 14 日）をオンライン会議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 70 回理事会（書面）提案事項の件

3. 展示会事業実施報告

3-1. 「CEATEC 2024」

(1) 開催内容

CEATEC 2024 は、共創の場として、展示を「見て」、コンファレンスを「聴いて」、未来の社会を「感じて」「考えて」、共創に向けて「動き出す」ことを指す「CEATEC 体験」による、新しい形の「デジタルイノベーションの総合展」を目指した。

本年度で 25 回目を迎え、産業の枠を超えた、ビジネス共創の機会として 10 月 15 日（火）から 18 日（金）までの 4 日間、幕張メッセにて開催し、産業の幅がより広がり、本年の開催テーマである「Innovation for All」を体現する 4 日間となった。

25 周年の特別企画「AI for All」は、AI で世界を変えていく最前線に立つ企業や団体の皆様と共に、大きく変わるこれからの未来社会や最新技術・ソリューションを発信した。

「AI for All」のステージプログラムでは、日本を代表する研究機関や企業、さらに海外の AI 専門企業が集い、AI 技術の最前線に関するセッションを実施した。

開催規模は、出展者数 808 社／団体（うち海外：25 カ国／地域から 158 社／団体）、開催期間中の登録来場者数は、合計で 112,014 名であった。開催期間中に来場した報道関係者は 1,087 名で、CEATEC に関する情報が国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で連日発信された。

また、一般社団法人日本自動車工業会が主催する「JAPAN MOBILITY SHOW BIZWEEK 2024」との初の併催が実現したことで、自動車関連産業との共創の拡がりのきっかけとなった、開催初日の 10 月 15 日（火）の午前中は「プレミアムタイム」と題し、報道関係者と出展者の重要顧客の皆様をご招待時間として実施した。また、幕張メッセでの開催後、パレスホテル東京にてオープニングレセプションを開催した。一般社団法人電子情報技術産業協会 津賀 一宏 会長による主催者代表挨拶後、石破 茂 内閣総理大臣より頂戴したビデオメッセージが上映され、ご来賓として会場には平 将明 デジタル大臣、上月 良祐 経済産業副大臣、馬場 成志 総務副大臣、一般社団法人 日本経済団体連合会 東原 敏昭 副会長、一般社団法人日本自動車工業会 片山 正則 会長をお迎えし、ご祝辞を頂戴した。各社経営幹部、大使館関係者、官公庁関係者など、約 700 名にご参集いただき、参加者同士の懇親を図った。

また、「CEATEC AWARD 2024」大臣賞表彰を実施し、大臣ならびに副大臣から直接、賞状と盾の授与とともに大臣賞と 25 周年特別賞の展示を行い、参加者にご覧いただいた。

(2) 収支報告

本年は 808 社／団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は 520,649,655 円となった。それに対する事業費支出は 433,268,386 円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 85,000,000 円を加算した支出合計は 518,268,386 円となり、単年度収支差引は、2,381,269 円となった。

前年度繰越金 4,080,338 円と本年の収支差引額の合計 6,461,607 円が、次年度繰越額となった。

(3) エリア構成

- | | |
|------------------------------------|---|
| ①General Exhibits : | Society 5.0 の実現に向け、AI が導入された未来を見据えたテクノロジー、電子部品・デバイス、ソリューションやサービス全般のエリア。 |
| ②ネクストジェネレーションパーク（スタートアップ&ユニバーシティ）： | 次世代を担う新進気鋭の企業や教育機関がテクノロジーと研究成果を披露するエリア。 |
| ③AI for All : | CEATEC 25 周年の特別企画「AI for All」は、AI で世界を変えていく最前線に立つ企業や団体の皆様と共に、大きく変わるこれからの未来社会や最新技術・ソリューションを発信。 |
| ④パートナーズパーク： | 独自テーマを設定し、あらゆる産業・業種のパートナーとともに Society 5.0 の未来社会を体現する「共創」エリア。「心豊かな暮らし」（Well-Being）と、「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）を実現するデジタル田園都市国家構想といったテーマ毎の社会全体の DX 像を「共創」するエリア。 |
| ⑤グローバルパーク： | 世界各国/地域からの最先端技術、革新的なソリューションを発信する、パビリオンなどを複合的に展開するエリア。
アメリカ、EU パビリオン、カナダ・オンタリオパビリオン、台湾イノベーション&サイバーセキュリティパビリオン、UAE パビリオン、ラトビアパビリオン、ウクライナパビリオンを設 |

置。

⑥コンファレンス：

幕張メッセとオンラインで 203 の多彩なセッションを開催。また、国際会議場でのセッションに加えて展示会場でオープンステージを展開。

『AI リアルタイム翻訳システム』を試験導入、40 以上の言語に対応。

(4) CEATEC AWARD 2024

「Society 5.0」の実現を促し、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的として実施するもので、CEATEC AWARD 2024 審査委員会による厳正な審査により選出された。

① 総務大臣賞

「ViXion01S～眼のピント調節機能を代替・拡張する次世代アイウェア～」 ViXion 株式会社

②経済産業大臣賞

「屋外対応 A0 サイズ ePoster」 シャープ株式会社

③デジタル大臣賞

「デジタルツインソフトウェア【TRANCITY】」 CalTa 株式会社

④25 周年特別賞

「産業 DX 推進と業務効率化を実現する NEC の映像認識×生成 AI」 日本電気株式会社

⑤部門賞

●イノベーション部門賞

・グランプリ

「3D センサと独自開発 AI による 3 次元認識の複合による配筋検査 自動化システム－GEMBA 3D－」 HMS 株式会社

・準グランプリ

「スピントロニクス技術を用いた第 4 の受動素子で AI デバイスの消費電力が 1/100 に」 TDK 株式会社

「最先端半導体の高性能化、省電力化に貢献するコンデンサ/インダクタ内蔵基板 (iPaS)」 株式会社村田製作所

●ネクストジェネレーション部門賞

・グランプリ

「同期・マルチチャネル バッテリフリー無線センシングシステム」 慶應義塾大学後方散乱通信研究
コンソーシアム

・準グランプリ

「CMOS/スピントロニクス融合 AI 半導体」 国立大学法人東北大学

●コ・クリエーション（共創）部門賞

・グランプリ

「Reposaku（レポサク）- 超高精度 GPS ロガーで「挿すだけ・カン エゾウイン株式会社
タン・農業 DX」を実現」

・準グランプリ

「水中フュージョンセンサ」

トリマティス株式会社

●グローバル部門

Data doesn't flow on rainbows

Gaia-X European Association
for Data and Cloud AISBL

Neuro ID®: The Ultimate Secure Biometric Solution 「ARC SYSTEM」

YNEUROR2C2 Limited（香港）

(5) 出展者数／登録来場者数

①出展者数（808 社／団体）

General Exhibits	427
ネクストジェネレーションパーク	141
AI for All	26
パートナーズパーク	156
グローバルパーク	58

②海外出展状況（25 カ国／地域・158 社／団体）

アジア地域：	7 カ国/地域・94 社/団体
北米地域：	2 カ国/地域・25 社/団体
欧州地域：	15 カ国/地域・24 社/団体
中東地域：	1 カ国/地域・15 社/団体

③登録来場者数（幕張メッセ）

10 月 15 日 (火)	10 月 16 日 (水)	10 月 17 日 (木)	10 月 18 日 (金)	合 計
21,397 人	26,144 人	29,589 人	34,884 人	112,014 人

3-2. 「Inter BEE 2024」

(1) 開催内容

「コンテンツ」を中核として、コンテンツを「つくる（制作）」、「おくる（伝送）」、「うける（体験）」のすべてを網羅した、プロオーディオ、映像、放送、通信、プロライティング、配信関連のプロフェッショナルをはじめ映像・メディア業界の技術者、クリエイター、ステークホルダーが一堂に会する日本最大級のメディア総合イベントとして、幕張メッセ（11 月 13 日（水）～15 日（金））にて開催

した。

出展者数は 1,058 社／団体（うち海外：36 カ国／地域から 555 社／団体）、開催期間中の登録来場者数は、幕張メッセ会場 33,853 名、オンライン会場 16,397 名だった。

（2）収支報告

本年は 1,058 社／団体が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は、502,223,593 円となった。それに対する事業費支出は 441,488,098 円、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 71,000,000 円を加算した支出合計は 512,488,098 円となり、単年度収支差引は ▲10,264,505 円となった。前年度繰越金 34,447,069 円と本年の収支差引額の合計 24,182,564 円が、次年度繰越額となった。

（3）開催概要

- ①名称：Inter BEE 2024
- ②会期：2024 年 11 月 13 日(水)～15 日(金)
- ③ 場所：幕張メッセ

（4）特別企画

① INTER BEE FORUM

基調講演および特別講演では、メディア・エンターテインメント業界のエキスパートが集まり、業界の最新技術動向や革新的なアイデアを提案する多彩なセッション、また特定テーマに焦点を当てた深いディスカッションまで、多彩なコンファレンスを実施。

② INTER BEE CREATIVE

映像制作における先進的な制作技術や制作ツール製品/サービスを展示とプレゼンで発信。また、昨年スタートした動画マーケティングラウンジも展開し、成長拡大する動画広告分野や動画コンテンツにフォーカスし、幅広い映像制作会社やクリエイターと広告担当者、利用者との出会いを提供。

③ INTER BEE BORDERLESS

放送と通信が一体化し、新たな進化を遂げる時代、無限のビジネスチャンスが広がるなか、新たな進化に向けた新規取り組みや更なる課題を発見し議論できる場として展開。業界を越えたアイデアが見つかる機会を提供。

④ INTER BEE EXPERIENCE : X-Speaker

国内最大の SR スピーカー試聴体験イベント。今年は 13 製品が登場。一年に一度のワールドクラスのスピーカー試聴体験空間を実現。

INTER BEE EXPERIENCE : X-Headphone/X-Microphone

プロフェッショナルユースのヘッドフォンとマイクロフォンの様々な特長が実感できる企画展

示を提供。周囲を気にせずに自由にプロユースの高音質を試聴体験。

⑤ INTER BEE IGNITION × DCEXPO

急速に変化するメディア環境の中で、未来を共創し、地域の力をグローバルなインパクトに変える方法や過去の遺産を活用する手法をテーマに多彩なセッションを実現。テレビ局とスタートアップの協力、地域の魅力の発信、最新技術のメディアへの影響、過去のテレビ遺産の再評価が議論され、メディアの未来を創造。スタートアップや展示ブースでは、新技術を活用した革新的な表現やソリューションに触れ、新たな発見ができる機会を提供。

⑥ INTER BEE DX × IP PAVILION

メインテーマの「IP」に新たに「AI」「Cloud」「Security」を取り入れ、より効率的な次世代のコンテンツ制作を提案するため、名称を「INTER BEE DX x IP PAVILION」として進化。現在から近い将来までの IP 技術を提案。

⑦ INTER BEE CINEMA

日本の映画制作最前線から技術とプロフェッショナルが集合し、そのテクニックと感性や創造性、最新動向を発信、次世代の新たなコンテンツメーカーを触発する場を実現。映画制作の最新技術と最新機材、プロの撮影技術と体験を提供。

⑧ INTER BEE AWARD 2024

本年より、出展品を対象とした AWARD を実施。

応募された出展品の中から選考・表彰し内外に発表し、Inter BEE で展開される様々な情報発信、ビジネス活動、また未来へ向けた創造と表現のための多様な活動の一翼を担うと共に、出展者の発信力がこれまで以上に高まり、より価値ある出展活動となることを目指した。

⑨ 出展者セミナー

出展者が自社の製品、技術、サービスについて具体的な事例や応用例を交えながら、わかりやすく説明するセミナーを開催。製品や技術の特長を深く理解できるとともに、導入や活用の際に役立つ具体的な知識を提供。また、出展者と直接コミュニケーションを取る機会を作り、疑問点や関心のある内容についてその場で質問いただくことにより知識や理解を深めていただいた。

(5) 同時開催

①第 61 回民放技術報告会（主催：一般社団法人 日本民間放送連盟）

11 月 13 日（水）から 15 日（金）の 3 日間、幕張メッセ 国際会議場 3 階にて開催。

②全映協フォーラム 2024 in 幕張（主催：一般社団法人 全国地域映像団体協議会盟）

11 月 14 日（木）幕張メッセ 国際会議場 1 階にて開催。

(6)出展者数 1,058 社/団体（うち海外 36 ャ国/地域、555 社）

展示部門	出展者数		
	日本	海外	合計
プロオーディオ	99	173	272
エンターテインメント/ライティング	62	38	100
映像制作/放送関連機材	268	297	565
メディア・ソリューション	74	47	121
合 計	503	555	1,058

(7) 登録来場者数

① 幕張メッセ：33,853 名

11 月 13 日（水）	11 月 14 日（木）	11 月 15 日（金）	合計
12,202	11,191	10,460	33,853

②オンライン：16,397 名（10 月 3 日（木）～12 月 13 日（金））

以 上